

大牟田市企業局上下水道事業運営審議会(第1回)会議摘録	
件名 日時 場所 委員 議事	令和7年度第1回大牟田市企業局上下水道事業運営審議会 令和7年7月3日(木) 9:30～ 大牟田市企業局庁舎3階講習室 出席5名 ○次第2 大牟田市水道事業経営戦略の策定について 地方公営企業会計制度について(資料1) 投資・財政計画(案)(資料2) 給水人口及び給水量の推計(資料3)
進行	内容
委員長	前回に続き水道事業経営戦略策定について審議を進める。
日水コン	[資料1] 地方公営企業会計制度について説明
委員長	ご意見、ご指摘があれば。
委員	p.5 内部保留資金について、「令和6年度決算分で増加する内部留保資金は1.3億円」と記載があるが令和2～5年度はどの程度の保留資金があったのか。
日水コン	後の資料にて説明を行う。
委員長	了承した。
日水コン	[資料2] 投資・財政計画(案)について説明
委員長	ご意見、ご指摘があれば。
委員	p.8 国庫補助金と工事負担金について、それぞれ令和11年度、令和16年度までの見込みとなっているが、以降は計上が未定ということか。
企業局	現状見込めるものについて計上しており、国庫補助については令和11年度まで計画を立てている。重要管路の更新については昨年度より重点的に補助対象となったため、引き続き補助金等の財源確保に努めていきたい。
委員	物価上昇率について、毎年2.3%を乗じると過大になるのでは。
日水コン	数値を確認して修正が必要であれば修正する。
委員長	了承した。

委員	p.9 国庫補助金返還金について、「8 年度以降は計上しないものとする」とあるがなぜか。
企業局	前々年度の決算に対して 2 年後に返還する仕組みである。令和 6 年度は国庫補助金を受けておらず、令和 5 年度決算分まで返還金が確定しているため令和 7 年度まで計上している。
委員	計上する可能性もあるのか。
企業局	決算では、数百万の単位で返還が生じる可能性はある。
委員	承知した。
委員	p.10 構造物及び設備の管路について、令和 7 年度～令和 26 年度までの計上は 0 だが、令和 27 年度以降に数値が出てくるのはなぜか。
日水コン	管路（埋設管路）という項目が、一般的な管路更新に充てる費用である。構造物及び設備の管路については、場内配管など施設周りの管路のことである。数十年置きに更新が必要となるので、このような表となっている。
委員	p.25 健全度の評価について、10 年から 20 年経過する間に経年化資産が増えてしまうことはないのか。
日水コン	大きく増えることはない考える。
副委員長	p.10 構造物及び設備の土木はどのようなものが該当するか。
日水コン	配水池、浄水施設などのコンクリート構造物がメインの土木施設となる。機械、電気、建築に分類されない一般的な土木構造物と言われるものを土木と分類している。
副委員長	土木に含まれる施設の内容や、機械・電気に含まれる設備の詳細を記載してほしい。
日水コン	そのように記載する。
委員長	p.10 全体事業費のグラフについて、管路と電気のグラフの色が似ているため、見づらい。 また、令和 24 年度に電気の項目が大幅に増加しているが要因はなにか。

日水コン	グラフの色については修正する。 令和 24 年度の増加要因については、ありあけ浄水場の電気設備の更新予定があるためである。
日水コン	[資料 2～資料 3] 収益的収支を含めた全体の財政収支の見通しについて説明
委員	[資料 2] p.5 収益的収入の中の (3) 特別利益は、p.2 財政収支の関連フローのその他収益の項目に該当するか。
日水コン	その他収益に該当する。
委員	p.15 (5) 企業債償還金・企業債残高の見通しについての記載の中で「事業費が大きい年度もあるため」とあるが、ありあけ浄水場更新計画のことか。
日水コン	ご認識の通りである。
委員	[資料 3] p.16 生活用原単位が上昇する理由は何か。
日水コン	コロナ渦による自宅での水使用の増加や核家族化により水使用効率が落ちてしまうことで原単位が増加する。節水意識について一定上限に達したと推察する。
委員	直近の実績はあるのか。経験上、節水の傾向があり今後も減少傾向が続くとする予測の方が多いと感じる。
日水コン	数年前までは減少する傾向が多かったが、コロナ渦を機に生活形態が変わり増加する傾向もみられる。
委員長	具体的にどの程度増加する推計か。
日水コン	214.2 ㍓/人・日が最新実績だが、10 年後には 216.4 ㍓/人・日と推計しており、若干増加する予測となっている。
副委員長	[資料 3] p.4 表-2.1 人口・水量実績について、1 日平均給水量は低減しているが、1 日最大給水量がほぼ横ばいの推計になっているのはなぜか。
日水コン	1 日最大給水量は、気象の状況により 1 日に使用される水の量が左右されるものの、全体の傾向としては変わらない。人口の減少に依存するものではない。
副委員長	[資料 3] p.17 表-4.2 時系列傾向分析結果について、べき曲線式の相関係数が 0.988347 とあるが、ここでは何と何の相関をとっているのか。

日水コン	実績値とべき曲線式の実績期間の推計値との相関である。
副委員長	この場合の相関係数というのは、データの方との相関か。データの方の相関で、母数の n は十分に満たされているのか。
日水コン	ご認識の通りである。相関係数の検定というものがあり、データ数が 10 の場合は 0.63 以上あれば統計的には相関があると言える。現在、 10 個の中で、コロナ期間は除くのでデータ数は減少しているが、その場合でも検定値をクリアしているため、採用することは可能である。
副委員長	統計的な判断がなされているということか。
日水コン	相関係数が全体的に低いという中で、一番良いものを選ぶという状況に陥った場合は、検定条件を満たさないため、その中で一番高いものがあっても選ばないというような作業はしている。
委員	[資料 2] p.5 (2) の営業外収益の③その他の項目受取利息及び配当金について、受取利息は上昇すると予測したほうがよいのでは。
企業局	運用できる資金としては、減少傾向となることから、一定の増を見込むのは厳しいと考える。
委員	承知した。
委員長	今回は、大牟田市の人口ビジョンをベースにしているため、社人研推計値より高めの数値となっている。実際は、推計値より厳しい数値になる可能性はあるのか。
日水コン	人口に関してはその可能性もある。しかし、[資料 3] p.6 図-3.1 大牟田市の将来展望人口に示しているように、 2018 年に予測された社人研予測よりも、 2023 年の社人研推計値の方が若干人数は多くなっている。
委員長	大牟田市の努力を反映した人口ビジョンなので、その値を使用するのは良いと思うが、社人研推計値との差が生じ、より厳しい経営になっていく可能性はあるということか。
日水コン	ご認識の通りである。
委員長	経営戦略としては、現実的な推計が必要ではないか。

日水コン	検討する。
委員	先ほど質問させていただいた、内部保留資金について教えていただきたい。
日水コン	〔資料 2〕 p.23, p.24 投資・財政計画の表に示すように、令和 6 年度の決算見込みでは約 28 億円の資金残高となっているが、年々減少していく推計となる。令和 12 年度には資金残高の目安である 20 億円を下回り、令和 19 年度には資金残高がなくなる推計となっているため、それまでには対策をする必要がある。
委員	経営戦略の要件としては、10 年後に黒字である必要があるためこれから対策を考えるということか。
委員長	経営戦略の中で考えていくことになる。次回以降、経営戦略のベースを出して検討していく。
委員	今まで何度も経営改善をし尽されており、今回の試算をみるかぎり、料金改定以外はありえないのではないかと思います。
委員	水道水が安全な水であることをもっと市民に理解してほしい。経営戦略にも、水道水の安全性について市民に啓発していくことは記載しないのか。
委員長	市民に対しての広報をすることは、非常に重要である。経営戦略への記載内容は検討していただきたい。また、経営内容を市民の方に理解していただくことは、水道料金改定時に必ず出てくる課題だと思われるため、広報活動は今まで以上に力を入れていただく必要がある。
副委員長	水道料金をあげるための広報だと思われないよう工夫してほしい。市民理解を深めることが重要である、
委員長	料金改定をやらざるを得ない経営状況をどのように市民に伝えていくか、また、経営戦略の中でどのような表現をするか、次回以降の審議会で議論していただきたい。
閉会	